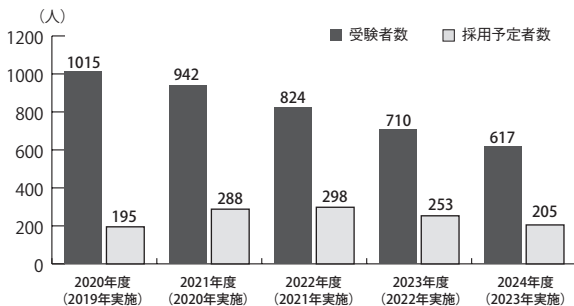


秋田県

面積	11,638 km ²
人口	895,086 人
県の花	ふきのとう
県の木	秋田杉
県の鳥	やまどり

求める教員像	(1) 教育者としての強い使命感と高い倫理観を身に付けている(使命感・倫理観) (2) 協調性と豊かなコミュニケーション能力を有している(人間関係形成力) (3) 教育的愛情にあふれ、児童生徒の心身の状況を踏まえ、受容的・共感的に理解ができる(教育的愛情と共感的理解) (4) 個性豊かでたくましく、常に学び続ける探究力を有している(豊かな人間性と探究力) (5) 教科等に関する深い専門的知識と広く豊かな教養を身に付けている(教科等指導の専門的知識) そしてこれらを基盤とした実践的指導力を有する人
出願期間	公開日 5月9日(木) 電子申請 5月10日(金)~5月27日(月) 17:00 書類郵送 5月10日(金)~5月27日(月)〈特定記録郵便・消印有効〉
試験日程	1次試験 試験日 7月13日(土)・14日(日) 合格発表日 8月7日(水) 2次試験 試験日 8月31日(土)~9月2日(月) 合格発表日 9月30日(月)
年齢制限	昭和40年4月2日以降に生まれた者。ただし、[高]〈実習助手〉、[特]〈高〉〈実習助手〉は、昭和40年4月2日~平成18年4月1日に生まれた者
募集教科	[小] [中] 国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、英語、技術、家庭 [高] 国語、地理歴史、数学、理科、保健体育、芸術(音楽)、英語、家庭、農業、工業、商業、水産、情報 [特] (小)(中高) 国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、英語、技術、家庭 (高) 情報、農業、工業、商業、福祉 [養] [高]〈実習助手〉工業 [特]〈高〉〈実習助手〉
特記事項	<p>■特別選考 ●障害者特別選考 試験内容等は一般選考と同様。障害の種類や程度に応じて受験方法等で配慮。必要に応じて実技等の一部もしくは全部を免除、又は内容を変更。●教職大学院特別選考 [小・中・高・特] 志願者で、教職大学院を令和4年4月1日以降に修了した者、又は令和7年3月31日までに修了見込の者は、1次の「総合教養」を免除。</p> <p>●大学推薦特別選考 [小・養] 志願者で、規定の要件を満たす者は、1次を免除。●言語聴覚士有資格者特別選考 [特] 志願者で、言語聴覚士の資格を有する者は、1次を免除。●社会人等特別選考(教員免許状の所有を前提としない選考) [小・中] 外国語活動、外国語(英語) 志願者、[高] 工業志願者、[高] 地理歴史(日本史) 志願者で、それぞれ規定の要件を満たす者は、1次は書類審査のみ。■優遇措置 ●第1次選考試験免除 令和6年度の2次結果通知において、令和7年度の1次免除が認められた者(同一の選考区分、志願種別を受験する場合に限る)は、1次を免除。●講師優遇Ⅰ 令和5年度及び6年度の1次結果通知において、令和7年度の1次「総合教養」免除が認められた者(同一校種を受験する場合に限る)は、1次の「総合教養」を免除。●講師優遇Ⅱ 県内国公立で平成31年4月1日~令和6年5月10日に36月以上の講師等の経験を有する者は、1次の「総合教養」又は「一般教養」を免除。●他県教諭等優遇 現在、県外で教諭等の身分を有し、継続して3年以上の教諭等の経験を有する者(他県等で採用された校種・教科(科目)での受験を原則とする)は、1次を免除。●教職経験者優遇 公立で継続して3年以上の教諭等の経験を有し、平成26年3月31日以降に退職した者(以前採用された校種・教科(科目)での受験を原則とする)は、1次を免除。</p>

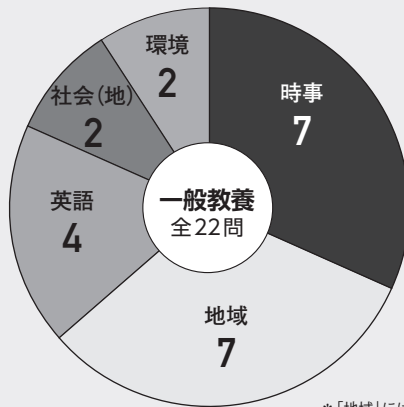
▼受験者数等推移



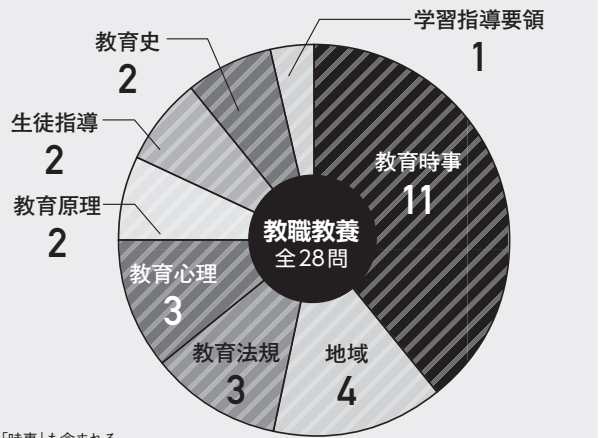
▼令和4年度 問題行動調査でのいじめの認知件数と不登校児童・生徒数

	小学校	中学校	高等学校
いじめ(件)	3,894	854	206
不登校(人)	480	1,086	331

2025年度(2024年実施)筆記試験DATA



*「地域」には「時事」も含まれる。



*「地域」には「教育原理」、「教育時事」、「生徒指導」も含まれる。

- ▶ 教育時事と一般時事で必出のご当地問題
- ▶ 必出の教育基本法
- ▶ 人文科学は英語(単語, 文章読解)

〈教職教養〉のうち、**学習指導要領**では特別活動の目標が出題された。

教育原理(特別支援教育)では、「交流及び共同学習ガイド」(2019年)に関する問題や、通級による指導における実施形態ごとのメリットや課題等に関する問題、自立活動の理解を問う問題が出題された。

生徒指導では「生徒指導提要」(2022年)が頻出である。今年度は、「第1章 生徒指導の基礎」から生徒指導の重層的支援構造を問う問題が出題された。また、「不登校児童生徒への支援の在り方について(通知)」(2019年)に関する問題や、いじめ問題への対応を問う問題も出題された。

教育時事ではご当地問題が必出であり、今年度は「令和6年度 学校教育の指針(秋田県教育委員会)」(2024年)から「秋田の探究型授業」等に関する問題が出題された。最新版の「学校教育の指針」等で秋田県の教育方針を確認しておくことが必要である。国レベルでは、「教育振興基本計画」(2023年)からVUCAの理解を問う問題等が出題された。

教育法規では、必出の教育基本法から第4条が出題されたほか、地方公務員法や学校教育法、学校保健安全法等も出題されている。

教育心理は幅広い領域から出題されている。今年度は発達理論(ポルトマン、ヴィゴツキー、シュテルン)、教育評価(ピグマリオン効果)、学習理論(感覚記憶)に関する問題がみられた。

教育史では、西洋教育史からパーカーズの提唱したドルトン・プランが、日本教育史から明治時代の教育制度が、それぞれ出題された。西洋教育史では人物名、思想上の特色、著書をセットにした一覧表を作成したい。

〈一般教養〉のうち、**人文科学**では英語(単語, 文章読解)が必出であり、今年度も同じような傾向であった。**社会科学**では例年、時事と地理を中心とした出題となっており、今年度も同様の出題となった。なお、ご当地問題は必出であり、注意が必要である。**自然科学**では例年、環境や情報から若干の問題が出題されており、今年度は環境に関する問題がみられた。